

2026年1月 教会行事予定

曜	午 前	午 後
1 木	新年ミサ 10:00 新年交礼会	
2 金	初金のミサ 10:00	
3 土	初土のミサ 10:00 (掃除・花:太平洋)	
4 日	主の公現の祭日ミサ 9:30 (典礼:白鳥) 1月運営委員会	
5 月		
6 火		
7 水		
8 木		
9 金		
10 土	ミサ 10:00 キリスト教講座②ミサ後 (掃除・花:白鳥)	
11 日	集会祭儀 9:30 (典礼:楽山) 各例会日	クリスマス飾り片付け
12 月		
13 火	OPC (パソコン倶楽部) 10:00	キリスト教講座① 18:30
14 水		
15 木		
16 金		
17 土	黒田仁様追悼ミサ 10:00 (掃除・花:楽山)	
18 日	ミサ 9:30・ (典礼:蘭岳)	
19 月		
20 火	OPC (パソコン倶楽部) 10:00	キリスト教講座① 18:30
21 水		
22 木	セシリアうたの会 10:00	
23 金		
24 土	高科美智子様追悼ミサ 10:00 (花:蘭岳)	
25 日	集会祭儀 9:30・ (典礼:太平洋)	
26 月		
27 火	OPC (パソコン倶楽部) 10:00	キリスト教講座① 18:30
28 水	こっとん倶楽部 10:00	
29 木		
30 金	初金のミサ 10:00	
31 土	(掃除・花:太平洋)	
1 日	ミサ 9:30 (典礼:太平洋) 2月運営委員会	



	12月	1月	2月	3月	備考
第1ミサ	楽山	白鳥	太平洋	蘭岳	
第2 ※	蘭岳	楽山	白鳥	太平洋	奇数月:集会 偶数月:ミサ
第3ミサ	太平洋	蘭岳	楽山	白鳥	
第4集会	白鳥	太平洋	蘭岳	楽山	
第5 ※				太平洋	3月ミサ

12月24日
降誕祭夜半ミサ
20:00
12月25日
降誕祭日中ミサ
9:30
クリスマスパーティー

2025
12/14

ひどつになろう

カトリック東室蘭教会広報誌 毎月第2日曜発行

CHC
カトリック東室蘭教会
CATHOLIC HIGASHIMURORAN CHURCH
〒050-0073
室蘭市宮の森町4-9-7
0143-44-3851

教皇レオ十四世、2025年12月10日、一般謁見演説

わたしたちの希望であるイエス・キリストについての連続講話

IV キリストの復活と現代世界の課題

7. イエス・キリストの復活——わたしたちの死に関する問い合わせへの究極的な答え

2025年12月10日 (水) 午前10時 (日本時間同日午後6時) からサンピエトロ広場で
行なった一般謁見演説 (原文イタリア語)。

講話の後、教皇はイタリア語で
次の呼びかけを行なった。

タイとカンボジア国境沿いで紛争が再燃したという知らせに深い悲しみを覚えています。民間人にも犠牲者が出ており、数万人の人が自分の家を離れるなどを余儀なくされています。愛するタイとカンボジアの人々に祈りのうちに寄り添うとともに、紛争当事者に対して即時停戦と対話を再開を求めます。

タイ・カンボジア間で7月24日から起こった武力紛争は、ドナルド・J・トランプ米大統領の仲介で10月26日の国境紛争に関する共同宣言署名により停戦していたが、12月8日 (月) 、タイ軍はカンボジアとの国境沿いで空爆を開始したと発表した。8日現地時間午前5時 (日本時間午前7時) 頃に激化した新たな衝突で少なくともタイ軍兵士1人が死亡、8人が負傷した。 AFP通信は10日までに両国で50万人以上が避難したと報じた。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。おはようございます。
ようこそおいでくださいました。

死の神秘は、つねに人間に深刻な問い合わせを引き起こしてきました。実際、死はもっとも自然な出来事であると同時に、存在するものの中で最も不自然な出来事であるように思われます。地上で生きるものすべては死ぬため、死は自然です。しかし、死は不

自然なものもあります。わたしたちが自分自身と愛する者に対して感じりいのちと永遠への望みは、死を断罪と「矛盾」と見るよう仕向けるからです。



古代の多くの人々は、この至高の神秘に向けて旅立った人々に寄り添い、彼らを思い起こすために、死者礼拝に関連する儀式と習慣を発展させました。これに対して、現代では異なる傾向が見られます。死は一種のタブー (禁忌) 、遠ざけるべき出来事であるように思われます。それはわたしたちの感覚と平静を乱すことを避けるために、小声で語られるものに思われます。そのため、わたしたちに先立った人々が復活を望みながら眠る墓地を訪れるこもしばしば避けられます。

それゆえ、死とは何でしょうか。死は本当にわたしたちの人生に関する最後のことばなのでしょうか。人間だけがこの問い合わせを自らに問いかけます。なぜなら、人間だけが自分が死すべき者であることを知っているからです。しかし、この自覚は人を死から救ってはくれません。それどころか、それはある意味で他のすべての生き物に比べて「重荷」となります。たしかに動物も苦しみ、死が迫っていることを感じますが、彼らは死が自分たちの運命の一部であることを知りません。動物がいのちの意味と目的と結末について問うことはありません。

それゆえ、このような侧面を考えるなら、わたしたちは自らを逆説的で不幸な被造物と考えざるをえません。それは、わたしたちが死ぬからだけでなく、この死という出来事が、それがいつどのように

して起こるかは知らないものの、必ず起こると確信しているからです。わたしたちは自分の死を自覚しながら、同時に無力であることを見いだします。おそらくここから、死の問い合わせをしばしば抑圧したり、そこから実存的に逃避することが生じるのだと思われます。

聖アルフォンソ・マリア・デ・リゴオーリ（1696年-1787年）は『死の準備』（Apparecchio alla morte）という標題の有名な著作の中で、死の教育的な価値について考察し、死が人生の偉大な教師でもあることを強調します。死の存在を知り、何よりもそれについて黙想することは、わたしたちが人生において本当にすべきことを選択することを教えてくれます。天の国のために役立つことを理解するために祈り、わたしたちをはかないものに縛りつける表面的なものを手放すために祈ることは、真の意味で生きるための秘訣です。それは、地上での旅路がわたしたちを永遠に向けて準備させることを自覚させてくれるからです。

しかし、現代の人間に関するものの見方の多くは、内在的な不死を約束し、テクノロジーによる地上の生の延長を理論化しています。これが、現代の課題の地平に姿を現した、トランスピューマニズムのシナリオです。死は本当に科学によって克服可能なものなのでしょうか。しかし、はたして同じ科学が、死の存在しない人生が幸福な人生でもあることを保証しうるのでしょうか。

キリストの復活の出来事は、死が生と対立するものではなく、永遠のいのちへの道として、その一部を構成するものであることをわたしたちに示します。イエスの復活は、この今なお苦しみと試練に満ちた時代においても、死後に起こることの完全性を〈前もって〉味わわせてくれるのです。

福音書記者ルカは、この暗闇の中の光の予感を把握しているように思われます。闇がカルワリオ（ゴ

ルゴタ）を包んだ午後の終わりに、こう記しているからです。「その日は準備の日であり、安息日が始まろうとしていた」（ルカ23・54）。復活の朝を先取るこの光は、まだ閉ざされ、沈黙しているように思われる空の暗闇の中ですでに輝き始めます。安息日の光は、初めて、また唯一そのときにのみ、〈安息日の翌日〉の夜明けを前もって告げます。すなわち、復活の新しい光です。この出来事だけが、死の神秘を根底から照らすことができます。この光の中で、そしてこの光の中でのみ、わたしたちの心が望み、希望することが真実となります。すなわち、死は終わりではなく、完全な光への、永遠の幸福への道だということです。

復活したかたは、死の大きな試練の中をわたしたちに先立って進み、神の愛の力によって、勝利のうちにそこから出て来られます。こうしてこのかたは、永遠の安息の地、わたしたちが待ち望む家をわたしたちのために準備してくださいました。そして、もはや影も矛盾もない完全ないのちをわたしたちに与えてくださいました。

愛のゆえに死んで復活したかたのおかげで、わたしたちは聖フランシスコとともに死を「姉妹」と呼ぶことができます。復活への確かな希望をもって死を待ち望むことは、永遠に消え去ることへの恐怖からわたしたちを守り、終わりのないいのちの喜びへと備えさせてくれるのです。



応援 有難うございます

こっとん俱楽部は2012年から毎週一回、毎年のバーザーやクリスマスのバーザーに向けて活動を続けております。

日頃より皆様の、材料提供や作品のご購入にご協力いただきメンバー一同、とても感謝しております。

今後とも引き続きご理解とご支援をよろしくお願いいたします。私たちの活動が支援活動にお役に立てれば幸いです。

2025年度 第8回運営委員会 議事録 2025年12月6日(土)13:00~13:50

議事録1. は、開催日時は表題のとおりです。議事録3. は出席者名で省略します。

3. 報 告 :

3.1. 12月. 1月. 2月の予定

12月

6日(土) 12月の運営委員会(13時~)黙想会のため移動
7日(日) 待降節第2主日、ミサ(楽山地区典礼当番)
ミサ中共同回心式
待降節の黙想会(ミサ後ライヤ神父様指導)
14日(日) 待降節第3主日、集会(蘭岳地区典礼当番)、例会日
21日(日) 待降節第4主日、集会祭儀(太平洋地区典礼)
24日(木) 主の御降誕夜半のミサ、20時から
25日(木) 主のご降誕祭のミサ、午前9時30分から
28日(日) 聖家族の祝日、ミサ(白鳥地区典礼) 茶話会
31日(木) 年末のミサ、10時

1月

1日(木) 神の母聖マリアの祭日ミサ10時 新年交礼会
2日(金) 初金のミサ 10時
3日(土) 初土のミサ 10時
4日(日) 主の公現の祭日、ミサ(白鳥地区典礼当番)
ミサ後1月の運営委員会
11日(日) 主の洗礼の祝日、集会祭儀(楽山典礼当番)
例会日、クリスマス飾り片付け
18日(日) 年間第2主日、ミサ(蘭岳地区典礼当番)新年会
24日(土) 故高科美智子様追悼 ミサ10時
25日(日) 年間第3主日、神のことばの主日、集会祭儀(太平洋地区典礼当番) ミニ大掃除

2月

1日(日) 年間第4主日、ミサ(太平洋地区典礼番)
(ミサ後2月の運営委員会)
8日(日) 年間第5主日、ミサ(白鳥地区典礼当番)、
15日(日) 年間第6主日、ミサ(楽山地区典礼当番)、
18日(木) 灰の水曜日、ミサ(白鳥地区典礼当番)、10時~
22日(日) 四旬節第1主日、集会(蘭岳地区典礼当番)
ミニ大掃除

※毎週の行事(変更の場合あり)

- 火曜日午前10時~ OPC(パソコン俱楽部)
午後6時30分 キリスト教講座
- 水曜日午前10時~ こっとん俱楽部
- 土曜日第2及び第4午前10時~ミサ、
その後キリスト教講座
セシリアうたの会は冬期間(3月まで)お休み

3.2 財務報告

現在予算通りに推移しているが、昨年度比較では減少傾向にあり、注意が必要
バザーの益金の処理は順調に推移している。

3.3 委員会報告

施設委員から古い物置について、傷みが相当にひどく、修理が難しい状況にあり、対応に苦慮しているが、収める物品も少ないことから、このまま使えるまで使用し、その後は取り壊すことになるとの報告があった。

4. 議 事 :

4.1 降誕祭について

降誕祭のミサ: 夜半のミサ12/24 午後8時
ミサ後パーティー(壮年部担当)
日中のミサ12/25 午前9時30分 ミサ後パーティー(女性部担当)

4.2 聖家族の祝日のミサについて

聖家族の祝日はミサがあり、ミサ後茶話会(有志の準備)をする。

4.3 12月からのミサ、集会祭儀の典礼当番について 4ページの表をご覧ください。

4.4 四旬節の黙想会について

待降節の黙想会をお願いした佐久間神父から3月1日であれば黙想会が可能との連絡があった。ライヤ神父様とも相談し、結果その線で進めることとした。

4.5 「靈における会話」の今後の取り組みについて 遅くなるが、2月の第3主日にこのことでざくばらんの会を開催することとした。

4.6 最近教会に見えていない方の情報収集について 実情の把握に難しさがあるので、往復はがきで状況を尋ねることとした。

4.7 共同墓地管理委員会の開催について 室蘭教会に状況を確認する。

4.8 その他

- クリスマスプレゼントについて
今年度は、神父様と侍者とオルガン奏者による
- カルメル修道院のクリスマス飾りの準備について
子供達、病者のために贈呈する。その他教会での販売もある。
- クリスマスツリー飾りの後片付けについて
1/11(日)に行う
- ライヤ神父様から
ホールの使用後は全て使用前に戻す(窓のブラインド、机、椅子、ストーブの始末、水道の始末、トイレの始末など)ことを忘れずに。
また、表玄関の戸も完全に締めることに注意(特に、雨の日、雪の日)
- 高科様から頂いた灯油の件を確認すること。

5. 司祭の予定等:

後日、お知らせに掲載

6. ミサ・集会祭儀の予定

12/07 ライヤ師、12/14 小林師、12/21 集会
12/24 ライヤ師、12/25 ライヤ師、
12/28 ライヤ師、
1/04 ライヤ師、1/11 集会、1/18 ライヤ師
1/25 集会